はなみずき
救世軍清瀬病院/介護医療院シャロン広報誌
Vol.43

旧介護療養病棟における身体拘束ゼロへの取り組みと成功要因

介護医療院シャロン　看護師長　三瓶 民江

前号に引き続き、昨年度の院内報告会において発表された報告をご紹介します。

身体拘束の廃止は、本人の尊厳を回復し、悪循環を止める、虐待防止において欠くことのできない取り組みです。身体拘束は、切迫性、非代替性、一時性のすべてが満たされる時のみしか認められていません。

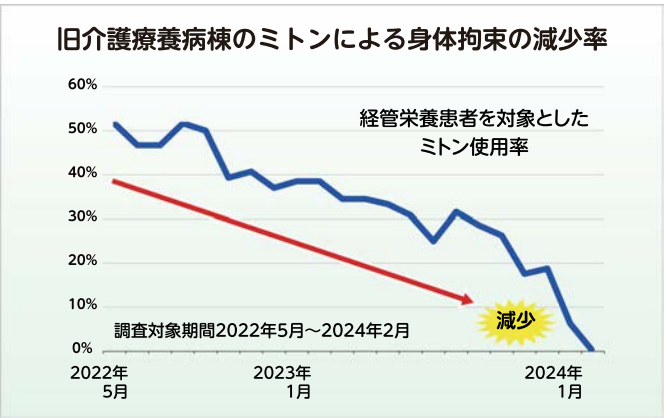
しかし、2015年全日本病院協会の調査では、医療療養病棟で91.8％、介護療養病棟で85.0％、2023年日本介護医療院協会の調査によると 61.4％の施設が何らかの身体拘束を実施しています。

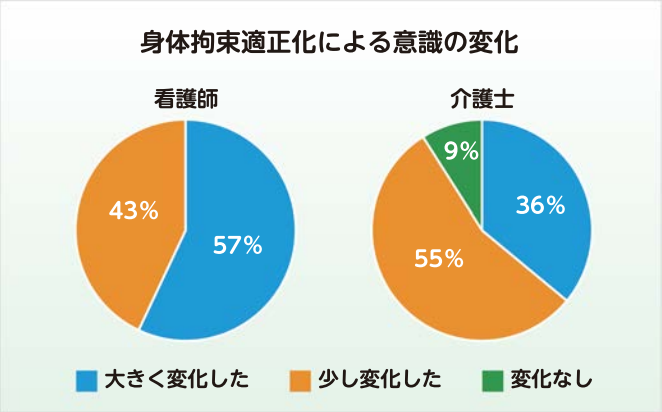
実際、介護医療院開設前には、ここでもミトン、つなぎ、4点柵、車いすベルトを行っていました。経管栄養の患者が30名以上おり、その内ミトンをしている比率は 51.6 ％でした。

厚生労働省の身体拘束ゼロまでのフロー図によると「トップが決意し、皆が共通の意識をもって身体拘束しない状態の実現を目指す」とあるように、意識改革を始め、各種資料に基づいた教育や研修に取り組みました。取り組み開始から22か月間で身体拘束が0になりました。

身体拘束適正化の取り組みを理解することによって意識の変化が生じたことは、病棟内で相談できる環境があったと考えられます。また、個別性のあるケアを考える風土も生まれ、具体的に用具や時間など様々な知恵と工夫から徐々に減少することを実感し、自信を持つことができたと考えられます。

尊厳を尊重する意識へ転換できることが示唆されました。





まごころで繋ぐ、当院のもう一つの力 ボランティアさん

病院、介護医療院は多職種が連携し、患者様、入所者様が安心して療養できる環境づくりに努めています。

その中で、もう一つ忘れてはならない大切な働きをしてくださっているのが、ボランティアさんです。現在29名のボランティアさんが、思いやりに満ちた活動を通じて安心と温もりを届けてくださっています。

今回は、当院を陰ながら支えてくださる“縁の下の力持ち”ボランティアのみなさんをご紹介します。

患者様のそばに、寄り添うお手伝い

ホスピス病棟の患者様は、「今が一番幸せ。以前は必死に頑張ってきたけど、病気で自分の力では何もできなくなった。何でも人にやってもらえばいいと決めたら楽になった。痛みが無くて皆に良くしてもらえる時が今もあるのが嬉しい」と話されました。寝たきりの患者様とチャペルタイムをご一緒しますが、時折、目頭に涙が光ります。心を通わせた患者様が、懸命に上げる手を握りました。旅立ちでした。 ― 出会いに感謝 ―

エプロンたたみをしています

ボランティアを始めたのは2018年の半ば、友人に誘われ始めました。私の夫はこの清瀬病院で亡くなりました。夫は、子供、孫に囲まれ、病院の皆様のやさしい心づかいを受け、旅立ちました。それから半年後、恵泉ホームでのボランティア、チャペルタイムの送迎、洗濯たたみをしていました。今は、週1回のエプロンたたみをしています。簡単な作業ですが、私の心の和みになっています。

チャペルタイムでの奏楽、グリーフケア

現在、ホスピス緩和ケア病棟でのボランティアをしております。水曜日午後のチャペルタイムでのオルガン伴奏と、グリーフケアの宛名書きをさせていただいております。チャペルタイムは、病院生活にあっても、神様を賛美し、聖書のお話を聞くことができる、とても大切な時間です。患者様の心が慰めと平安に満たされることを願って、賛美のお手伝いができることに感謝の気持ちでいっぱいです。

エプロンたたみと、お風呂のお手伝い

今年の4月でボランティアを休止されたＩさんと先日お電話で話しました。「Ｉさん、エプロンたたみ、布切りとおひとりで大変でしたね。」「そんなことありません。行ってそこで過ごす時間がとても楽しかったんですよ。」そうなんです。私も行ってお手伝いできるのがとても楽しみなのです。宮本チャプレンの時代教会の友人に連れて行ってもらい 20数年経つでしょうか。今少し、よろしくお願いします。

シンギングボウルを奏でて

シンギングボウルはチベット・ネパール発祥の楽器です。職人の手によって丁寧に作られた鍛造製の手作りのボウルは、同じ大きさでも音色が異なります。一つのボウルから複雑な音色を奏で、複数の癒しの波動「倍音」が発生します。空間を震わせながら体や心に届きます。入所者様や医療スタッフの皆様と音色の中に共に憩い、共振共鳴していること、私自身とても嬉しく幸せな時間です。

今回ご紹介した活動以外にも、パストラルハープの演奏、将棋のお相手、マッサージ、リフレクソロジーなど、さまざまな形でご支援をいただいております。お一人おひとりの温かな思いやりが、患者様と入所者様に安心と安らぎをもたらしています。

今後もボランティアの皆様をはじめ、多職種間での連携を深めながら、患者様、入所者様が快適にお過ごしいただける環境づくりに努めてまいります。

安心・快適なケアのために　―　おむつの研修会を行いました

毎年恒例となりましたが、日々のケアの質を高めることを目的に、①正しいおむつの装着方法、②様々な種類のパットの使い方について勉強会を開催いたしました。様々な職種の方が大勢参加し、とても有意義な時間を過ごすことができました。おむつの勉強会も今年で約10年目を迎えます。その場で学ぶだけではなく、学んだことをいかに実践するかが重要です。日々進化していく「物」と同じように、スタッフもアップデートできるよう、今後も継続して開催します！

防災訓練と無料健康相談会を行いました

当院では火災や災害時を想定した防災訓練を年2回実施しており、先日6月4日に1回目を実施しました。今回は夜間にホスピス緩和ケア病棟内で火災が発生したとの想定で訓練を行いました。消火器訓練には近隣の清瀬地区の方々にもご参加いただき、一緒に防災意識を高めることができました。

訓練後は「無料健康相談会」が実施され、多くの方々が血圧測定などを行って、看護師や薬剤師など当院スタッフとご自身の健康状態について熱心にお話しされていました。

今後も無料健康相談会が予定されていますので、ご興味のある方は、どうぞご参加ください。

シリーズ連載
チャプレンの窓

今年は、病院の中庭のタイサンボクの木に、下から上へと例年にないほど、たわわに白い花を咲かせました。例年ですと、花は上を向いて咲き、手を伸ばしても花に届かず、花の正面を見ることができませんでした。しかし、今年は、手の届く枝の先から、たわわに、花を咲かせ、枝をつまんで、大きな花の正面からじっくりと眺めることができました。

患者様やご利用者様とお話をしていると、今年のタイサンボクの花を観賞しているように感じさせられることがあります。明るい笑顔、苦しい経験をユーモアたっぷりに話される姿、黙っておられても今もご家族の大黒柱であられる姿。美しい旋律に酔いしれる姿。その方の人生の花を身近に見させていただく瞬間を、心から感謝しつつ、訪問をさせていただいています。

入院・入所に関するお問い合わせ

TEL：042-491-1412

受付時間：平日9:00～17:00
（祝日を除く月曜日～土曜日）

当院は無料低額診療事業を行っております。詳しくは当院のWEBサイトをご覧ください。
ご不明な点はお電話にてご相談ください。

救世軍清瀬病院　https://kiyosehp.salvationarmy.or.jp/
介護医療院シャロン　https://kiyosehp.salvationarmy.or.jp/sharon/

救世軍清瀬病院
The Salvation Army Kiyose Hospital
TEL：042-491-1411
〒204-0023清瀬市竹丘1-17-9

当院は宗教に関係なく、どなたでもご利用になれます。詳しくはホームページをご覧ください。

はなみずき vol. 43.
2025年9月発行　発行者：救世軍清瀬病院　〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-9　TEL 042-491-1411　FAX 042-491-3900　https://kiyosehp.salvationarmy.or.jp/
逐次刊行物